

## 階層によるラ行五段化の通方言的一般化 —九州方言を中心に—

### 宮岡大

本発表の目的は、九州方言における「ラ行五段化」について、階層を用いて通方言的な一般化を行うことである。九州方言では、母音語幹（上一段、上二段、下一段、下二段）動詞が、r 語幹（ラ行五段）動詞のような活用をみせることがある。本発表では、ラ行五段化に関与する変数として、(i) 動詞語幹の種類と (ii) 語形を作る接辞の種類に着目する。その上で、九州の 16 方言のデータを元に、ラ行五段化には方言間バリエーションがあることを示す。更に、このバリエーションについて前述の変数を用いて分析し、(1) (2) に示す規則性があることを示す。

(1) ラ行五段化に関与する動詞語幹の階層

- a. 語幹クラスの下上: 上一段・上二段 > 下一段・下二段
- b. 語幹モーラ数: 1 モーラ > 2 モーラ以上

(2) ラ行五段化に関与する接辞の階層

意志 (// -u//, // -joo//) > 否定非過去 (// -n//) > 命令 (// -e//) > 過去 (// -ta//)

(1) は、左からラ行五段化しやすい動詞語幹を示す。一方言において、ある語幹がラ行五段化するなら、それより左の語幹もラ行五段化する。(2) は、左からラ行五段化に関与しやすい接辞を示す。一方言において、ある接辞がラ行五段化に関与するなら、それより左の接辞もラ行五段化に関与する。

(1) (2) は、小林隆 (1995) 「動詞活用におけるラ行五段化傾向の地理的分布」(『東北大学文学部研究年報』45) や、黒木邦彦 (2019) 「動詞語幹交替より紐解く九州方言のラ行五段化」(窪菌晴夫・木部暢子・高木千恵 (編) 『鹿児島県甌島方言からみる文法の諸相』くろしお出版) の一般化では説明できないデータ (例えば大分県九重町方言; 糸井寛一 1964 「九重町方言の動詞の語形表」『大分大学学芸学部研究紀要 人文・社会科学 A 集』2(4)) も説明可能である。